

平成22年度 石狩市教育委員会会議（12月定例会）会議録

平成22年12月22日（水）
第2委員会室

開会 午後 2時30分

○委員の出欠状況

委員氏名	出席	欠席	備考
委員長 中村 照男	○	/	
委員 安田 秀子	○	/	
委員 伊藤 好美	○	/	
委員 土井 久美子	○	/	
教育長 樋口 幸廣	○	/	

○会議出席者

役 職 名	氏 名
生涯学習部長	三 国 義 達
理事（市民図書館長）	百 井 宏 己
次長	厚 海 嘉 孝
管理課長	新 関 正 典
学校教育課長	池 田 幸 夫
社会教育課長	清 水 雅 季
厚田生涯学習課長	成 田 和 幸
教育支援センター長	三 浦 高 行
参事（施策推進担当）	東 信 也
市民図書館副館長	丹 羽 秀 人
学校給食センター長	桜 田 雅 人
管理課教育総務担当主査	寺 嶋 英 樹

開会宣告

(中村委員長) ただいまから、平成22年度教育委員会会議12月定例会を開会します。

日程第1 会議録署名委員の指名

(中村委員長) 日程第1 会議録署名委員を指名します。安田委員にお願いします。

日程第2 議案審議

(中村委員長) 日程第2 議案審議を議題とします。

承認第1号 専決処分の承認を求める件について

(中村委員長) 承認第1号 専決処分の承認を求める件について、提案願います。

(樋口教育長) 承認第1号 専決処分の承認を求める件について、でございます。11月の教育委員会会議で提案しました「教育情報化事業」についてであります。国の交付金を活用した事業として総務省から一定の情報を得つつ、年度内の完了ということもありまして、12月定例市議会に提案をいたしたところでございます。その後、12月7日になりまして、総務省から不採択という情報を得たということで、予算を撤回しなければならない状況となったところでございます。しかしながら、プレス発表するなど市民に実施の方向ということでお示しをしていたこともあって内容を精査し、再度、提案をすることにいたしましたところであります。このような状況になりましたことは、誠に申し訳ないことと存ずるところであります。以上の状況から専決処分を実施したところであります。このようなことから石狩市教育委員会教育長事務専決規程第2条第1号の規定に基づき専決したので、同条第2号の規定に基づき報告し、承認を求めるものであります。

(新関課長) ただいま教育長からご説明しました内容について、説明したいと思っております。当初3,924万5千円ということで、歳入の部分・歳出の部分同額ということで予算を計上してございました。再提案ということで、1,500万円ということで、2,400万円ほど圧縮した形になっております。この内容について、説明させていただきたいと思っております。国の事業ということで提案しました背景には、国の雇用対策という部分の要素が絡んでおりました。それで、機器の整備に合わせて、人件費の部分、特にICT支援員を雇用しなければならないですとか、

地域協議会をつくって委員さんを集めて中身について協議して進めていくことが、補助採択になる要件でございました。浜益小学校で実施するにおいても同様の形で組んでいて、今回補助ではなく、市単独で実施することになったので、雇用の部分の縛りをなくして、事業実施することが可能となったところです。支援員についてのフォロー等については、紅南小学校で先行実施しているということで、浜益小学校の校長先生はじめ紅南小学校の先生と協議をしたり、情報収集をしたり、密に連携を取りながら実施することが可能である。また、設置にあたり、設置業者からのフォローも可能となるので、機器等の使い方以前に、授業をどのような形で、ICTの機器をどう活用して行っていくかということが支援員のメインの仕事、国に出す報告書の作成というのが膨大な量があって、ICT支援員が請け負って行っているので、その部分が補助でなくなったため、報告義務がなくなったことから、ICT支援員は必要ないだろうということで、浜益小学校の了承を得ています。その部分で人件費分が削減、圧縮できたということで、200万円位の圧縮になっています。あと、大きな部分では紅南小学校で先行して実施しているので、ソフト関係についてはできるだけ活用したいと考えています。ソフト開発の経費として1,400万円位見込んでいましたが、かなり圧縮できると考えています。タブレットPCについては、一人1台ずつ小さいパソコンを与えるということで69台を見込んでいましたが、これについて1学年分だけ揃えるということで圧縮しています。これについても浜益小学校ともお話をさせていただいていますが、浜益小学校では1学年1クラスということで、学年分があれば、同じ時間帯に同時に使うということがなければ、時間割のやりくりで対応が可能なので、学年分を揃えればICTの授業に影響がないということで学校とも調整ができました。紅南小学校のように、学年に複数クラスとなると、なかなか1クラス分というわけにはいかないのですが、1クラスしかないので、対応ができたところです。パソコンの台数が減ったことにより、それにインストールするソフトなどの各種経費も圧縮できましたので、事業費が大きく削減になりました。事業内容そのものについては、計画していたものと問題なく実施することが十分可能であることというので、今回、結論付けました。1,500万円と金額は圧縮になりましたが、このような形で事業を実施することで、提案をして議決を得たものであります。

(中村委員長) ただいま提案説明ありました承認第1号について、ご質疑等ありませんか。

質疑応答

(安田委員) 紅南小でやっていることがうまく使えて経費を圧縮できるとのお話

でしたが、結局、ベネッセの協力をいただくことになるのですか。

(三国部長) まず言えるのは、NTTが今回の紅南小のフューチャースクールをやっていますので、NTTの協力が基本的に必要になると思います。それと紅南小、学校間の協力体制も必要で、これについては是非協力していきたい、今日も教育長と紅南小におじゃまさせてもらったのですが、やはり話がだんだん進んできて、フューチャースクールが全国で10校しかないということで、他のソフト会社が色々と打診にきて、試供品的に使ってもらいたいというものがいくつか出てきて、紅南小でも既に同じようなソフトは使っているの、それを新しい浜益小に紹介するだとか、そういう形で1社だけというよりも、かなり複数社がビジネスチャンスの的に開発しているものですから、それを使いながら進めていくということになると思います。

(安田委員) わかりました。

(中村委員長) 他に質疑等がないようですので、承認第1号については、原案どおり承認ということによろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) ご異議なしと認め、承認第1号については、原案どおり承認しました。

承認第2号 専決処分の承認を求める件について

(中村委員長) 承認第2号 専決処分の承認を求める件について、提案願います。

(樋口教育長) 承認第2号 専決処分の承認を求める件について、でございます。今回の補正につきましては、円高デフレ対策、国の緊急経済対策といたしまして、石狩市におきまして国の地域活性化交付金、きめ細やかな交付金などを活用いたしまして、市内の公共施設の修繕事業などを実施するという、12月の21日に臨時議会を開催し、それぞれ進めるということになったところです。12月21日ということで、急を要するということから、今回の部分については社会教育施設の改修等にかかる補正予算につきまして、専決処分を行ったものであります。このようなことから石狩市教育委員会教育長事務専決規程第2条第1号の規定に基づき専決したので、同条第2号の規定に基づき報告し、承認を求めるものであります。

(清水課長) 社会教育施設改修事業のうち美登位創作の家について、ご説明申し上げます。美登位創作の家については、これまで汲み取り式のトイレでありまし

たが、この事業によって新たに2箇所簡易水洗の洋式トイレを設置しようとするものであります。また、併せて宿泊棟というのが2棟ありますが、こちらの方についても1箇所ずつ、計4箇所の簡易水洗化を図ろうとするものであります。

(成田センター長) 学校給食施設改修事業としまして、厚田学校給食センターのエアーカーテン取替について、ご説明申し上げます。エアーカーテンというのは、給食センターの食材及び給食の搬出・搬入口にあつて間口の幅3.6mにわたり、上から勢いよく風を吹き下ろして、外部からの虫やほこり等の侵入を防ぐ働きのあるものです。厚田学校給食センターは、平成3年の建築でございまして、エアーカーテンは、その時から使用しており、20年経過していることから機器の老朽化によって送風機能が衰え、各種交換部品も既に供給されていないため修理不能につき、機器本体をこのたび入替するものです。

(丹羽副館長) 図書館に係る補正予算について、説明します。1つ目は、外壁等改修事業であります。竣工後11年を経過した図書館ですが、屋上の防水補修を考えています。高圧洗浄をかけて水漏れ等を防ぐ工事であります。また、図書館の外壁はアルミパネルで出来ていますが、これを繋いでいるコーキングシーンを点検し、補修するものです。続いて、視聴覚システム改修事業ですが、視聴覚ホール及びエントランスのAV機器を制御しているパソコンがありますが、このパソコンのOSが98のため、操作するたびにフリーズし運用に支障をきたしているため、ソフト・ハードを入替することによって良好な運営をしていきたいと考えています。最後に、学校図書・障がい者支援・レファレンス資料と書かれています。300万円の予算ですが、通常予算で購入ができない、学校支援にかかる図書、障がい者支援のための図書、目が不自由な方が活用される視聴覚資料を購入したいと考えています。レファレンス資料も強化していきたいと考えています。

(中村委員長) ただいま提案説明ありました承認第2号について、ご質疑等ありませんか。

質疑応答

(安田委員) 給食センターのエアーカーテンですが、常時入っているのですか。それとも人が通る時に出るのですか。仕組みを教えてください。

(成田センター長) まず、搬入搬出口というのは、大型トラック1台がシャッターを開けて、車庫のように中へ入って行って、トラック1台が入ると外のシャッターを閉めます。その後、奥の荷台側のシャッターを開けます。そのシャッターの向こうが給食室ですが、そのシャッターを開けた時に、エアーカーテンを強く引き下ろして、空気で遮断するという、そういった作業です。ですから、トラッ

ク搬入搬出の時だけ使います。

(安田委員) わかりました。それから図書のところ、学校支援の図書は、小学校に貸し出す図書のことなのですか。

(丹羽副館長) 各クラスにお貸しするものも含めて、あるいは学校図書館を支援するということも含めて、学校全体に支援出来る資料ということで、児童書中心だと思いますが、ある程度揃えたいと思っています。

(中村委員長) 他に質疑等がないようですので、承認第2号については、原案どおり承認ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) ご異議なしと認め、承認第2号については、原案どおり承認しました。

(中村委員長) 以上で、日程第2 議案審議を終了します。

日程第3 教育長報告

(中村委員長) 日程第3 教育長報告を議題とします。

(中村委員長) 教育長から報告をお願いします。

(樋口教育長)

1 1月26日 石狩管内課題研究発表会 (花川南小)

1 1月27日 花川南小学校タイムカプセル開封式

1 2月 6日 石狩市議会一般質問

1 2月 7日 //

1 2月 8日 石狩市芸術・文化支援者調印式

1 2月 9日 インフルエンザ 花川中学校 学級閉鎖

1 2月10日 教職員永年勤続表彰伝達式

校長会

- ・児童生徒の健康対策
- ・冬季休業中の生徒指導などについて
- ・職員向けリーフレット「信頼される学校運営について」活用
- ・「子宮頸がん予防ワクチン接種」の協力について

- 12月11日 クリスマスコンサート
- 12月12日 石狩文化協会特定非営利法人認証記念式・記念講演
- 12月13日 社会教育委員と教育委員との意見交換会
- 12月16日 教頭会
 - ・教育ICT機器の活用について
 - ・広域人事について

(中村委員長) ただいま教育長から報告がありました。この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(伊藤委員) 石狩市議会一般質問のなかで、何点か質問もありましたが、いじめに関しての質問というのはどのようなものなのか、もう少し詳しく教えていただければと思うのですが。

(樋口教育長) いじめの実態がどのような状況にあるかというのが、まず1点目の質問です。数字的には、はっきり記憶いたしておりませんが、21年度と比較すると22年度は減少傾向にあるという状況ですが、この辺については減少したということを楽しむのではなくて、子どもたち一人一人の状況をしっかり掴みながら、対策を講じるということをお話させていただきました。また、各学校において児童、生徒の発するサインということについては、きめ細やかな、色々な場面においてのサインということを受け止めるということについて、学校現場でしっかり行っていただきたいというような内容の質問であり、私どももそのような形で取り進めておりますし、今後とも取り進めるということでお答えをさせていただいているところです。

(伊藤委員) ありがとうございます。このいじめの関係なのですが、先日、テレビ報道は90%くらいが嘘で、10%くらいで見ておくように言われたばかりなのですが、以前にも自殺等が起こったときに、教育委員会会議の中で議論した時も言われていたと思うのですが、学校からいじめに関する報告ですとか、不登校に関する報告等を、本当は突き詰めれば、不登校やいじめということになるのかという報告の内容によって、数字が計上される、されないの、そのような報道が起こる度に、全国的に騒がれている報道は継続してはされていないのですが、こういうことが、起こった都度、同じような報道をされて、その後、検証されているかということ、石狩市教育委員会としては、そういった報告についての見直しですとか、その都度検討ですとか、そのようなことは行われているのですか。

(三浦センター長) いじめの報告については、まず、アンケート調査を全ての学校に行っております。時期的なものは、新年度が始まって、6月から11月の間

で計画的に1回ないし、2回は行っています。これは、児童、生徒に対するアンケート調査が主な形になっています。7月後半、8月にかけてですが、いじめ、不登校を振り返る習慣という位置づけをしまして、これは第1回目の調査、そして振り返っていただいて、報告をもらっております。第2回目は、12月から1月にかけてという1回だけに終わらないで、繰り返すということで、子どもたちの視点を深めてくださいとお願いしております。今年は、7月末時点での報告ですが、いじめというアンケートの結果、それが引き続いているという報告は受けていません。これまで、改善が見られないというケースにつきましては、別様式で報告書を作っております、私どもに、学校単独では困難な場合は報告をよこして、それぞれ私どもと協議をし、対策を講じるということを図っております。教育長からお話もありましたが、特別支援教育がスタートして4年目を迎えております。各学校に1名ないし複数のコーディネーターが配置されています。また、中学校には、スクールカウンセラーも配置されております。これらの役を持っている人間が、学校内でかなり活用されていることから、いじめとしての件数は減少傾向にあります。これは喜ばしいことでもあり、保護者にも活用されているという報告はあります。

(伊藤委員) 問題があった時にしか、報道に出ないですし、つい私たちも時が過ぎれば、そういったことを忘れてしまうということもありますので、引き続き、事がなくても報告のなかなり、資料が出来るとすれば、いただいたりして、見せていただければと思います。

(土井委員) 教頭会の折に広域人事のお話がありましたが、確か道教委には人材派遣の方の申し込みが、12月5日か1月5日というお話があったのですが、その時にはなかったということですね。それで、50歳程度まで上げるということで、道教委からお話があり、それを16日にしたと出ていますが、脈はありそうなのですか。知り合いからの話では、石狩管内にはまだ一人もいないということを知っています、どんな状態なのでしょう。

(樋口教育長) 管内的には局から報告をいただいているのでわかりませんが、石狩市内では1人の方について脈があるということで、今、局と協議をさせていただいています。最終的に色々な経過をたどっていかなければなりませんから、どうなるかわかりませんが、今、1人の方について可能性があるということです。いずれにしても、石狩教育局管内で後志との広域人事が3名、日高、宗谷、根室が各1名という6名が目標になっていますし、今回の道議会で、道教委の教育長の答弁もありますので、この辺については、1月下旬の最初の人事が固まるまで、掘り起こしをお願いしたいというお話になると思います。いずれにしても、極めて厳しい状況にあるということは事実ですし、これは毎年続けるという話になるものですから、毎年同じような悩みを抱えていかなければいけないと思います。

(土井委員) いつぐらいまでに道教委は。

(樋口教育長) 今、申し上げましたように、1回目の締め切りは終わっていますが、当然今回については人数的に足りないということで、1月下旬の最終の時まで、石狩教育局あるいは道教委は、色々なことで働きかけを行うのではないかと思います。

(土井委員) ありがとうございます。

(中村委員長) 校長会か教頭会で、触れていただきたいお話しを申し上げます。12月19日の市民カレッジで「ノーベル賞受賞への軌跡、鈴木博士の研究を語る」という演題で、徳田先生のご講演がありました。是非お聴きしたいとの強い思いと、またどの様な方がお聴きにこられるのか興味もあり受講したのであります。運営委員の方々は、石狩市内の小中学校へパンフレットを持って行かれたとのことですが、会場には石狩南高校の女生徒が1人でした。しかしながら屯田北中の化学部員15名程が、先生の引率で受講され熱心にメモを取られている姿を見て、救われた思いをしたのであります。日本でも既に多くのノーベル受賞者がおられますが、北海道の中だけでひたすら研究しノーベル賞を受賞された方が身近におられるのであります。石狩市民カレッジでは、少しでも子どもたちに科学に興味を持って欲しいとの思いから開いた講座でもあったと思います。石狩市の先生方には、そういうことにもう少し敏感に反応していただければと思うのであります。担任や理科の先生が、誰か一緒に行かないかと一声かけていただくことがあっても良いのではないかとこの思いに駆られました。何かの機会にお話ししていただければと思います。

(中村委員長) 他にございませんか。それでは、教育長報告を了解しました。

(中村委員長) 以上で、日程第3 教育長報告を終了します。

日程第4 協議事項

(中村委員長) 日程第4 協議事項を議題とします。

① 全国学力・学習状況調査結果の公表について

(中村委員長) ①全国学力・学習状況調査結果の公表について、事務局から説明をお願いします。

(厚海次長) 別紙資料により説明する。

(中村委員長) ただいま事務局から説明がありましたが、この件についてご質問ありませんか。

質疑応答

(安田委員) 各頁で正答率の状況があつて、その下に全道の正答率との差を載せてあります。それを見ていくと、全道との比較で言えば、同程度ということですよ。文章は全国との比較で書いていましたが、全国との比較だとどうなのかなと思ひ、道よりは全国との比較の方が大事なのかと思つたのですが。それと、B問題の領域観点別正答率比較グラフをみると、A領域は少し内側ですが、Bに比べれば全国平均に近いように見えます。しかし、B問題を見るとやはり、へこみが大きいように見えます。それで、B問題の解析のところで、教科に関する意識を載せたかったからだと思いますが、少し、落ち込み具合の書き方が薄いのかと思ひながら見ていました。よく出来ているところも載せておくのも、ここが出来ているのですよと見せることは大事だと思いますが、B問題の落ち込んでいるところの説明が大丈夫なのかと思つて見ていました。でも、本当に表現が難しいと思います。よくまとめられていると思ひました。

(厚海次長) まず、全道、全国との差ということについてであります。用語の方で、全国の比較にしていることについて、実は、全道のデータがこのような形で合算データには細かいところまでありません。つまり、各設問の正答率を出ているのですが、言葉とかあまり合算データとしては、数字のみしかきてない部分が多々あります。ですから、より全国と比較するとほぼ同程度にならないという実態があります。それは上をみると正答率の状況で見ただけで、より状況がわかるかという一つの捉え方と、北海道としては一つのモデルパターンとして、公表の仕方ということでまいているものがあります。それは、棒グラフのなかで実際、どこら辺に位置するのか、指し示しているものなのですが、それよりも、この石狩市の書きの方がより簡素でわかりやすいかと思ひまして、この方式を採用させていただきました。あくまでも北海道としては、全道のどこに位置するのかということを示せということでしたので、この形式にさせていただきましたということが、ひとつの実態です。併せて、B問題の表記が薄いのかというお話がありました。特徴的な例を挙げて書きましたので、Aの方がより書きやすいという実態にあることは間違いないです。Bについては、設問を見ていただければわかると思いますが、なかなかわかりづらいという実態になっていますので、この程度にさせていただきました。

(伊藤委員) 安田委員もお話していたかと思いますが、全部の解説というのはないとのことでしたよね。逆に、あまり誇大に褒められるとか、この辺は出来ているよねということは、各、この国語、算数、1点でも2点でもないのかというところが載っていますか。

(土井委員) 一番気になったことは朝食です。私が若葉小の校長の時には、朝食

を毎日食べている割合が40%だったのです。ここで見ると、小学校85.1%となっています。石狩も80%なのですね。そんなように出ているので、どんな質問でこの朝食、私としては朝食が学力に影響すると切に思っているものですから、この実態であれば学力は上がりますよね、という考えがありますので、どんな設問で答えているのかということを知りたいのですが。

(厚海次長) 設問番号1番、朝食を毎日食べていますか、という質問に選ぶ番号があり、実際のものがありますので、後ほど。

(土井委員) それでは、後ほど見せていただければと思います。

(中村委員長) これは、何時どのような形で市民に公表するのですか。ただホームページにアップするだけですか。

(厚海次長) そのように考えています。

(中村委員長) まず、最初に、書き始めのところを丁寧にしていくということが大切かと思います。道教委では、11月20日に調査目的を明確に公表しており、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る」としております。しかしながら市教委では、この重要な点が抜けていると思います。

次に、前回も議論したのですが、市教委ではプラスマイナス3%の範囲を「道とほぼ同程度」とし、3%以下を「道より下回る」・3%以上を「道より上回る」の3区分しかしないのです。それも一つの方法でしょうが、道教委は昨年度内14(支庁)地域について、9区分で公表しております。一段階が2%刻みでできており、頑張ればすぐにでも全国平均との差を縮め、全国平均に到達し、更には全国平均を上回ることを実感出来るのであります。プラスマイナス3%刻みでは、ハードルが高く努力の成果がなかなか現れてこないのです。逆に刻みを小さく刻んであげればあるだけ、努力すればするだけ、階段をのぼって行ける喜びを享受出来、そういった教育的な観点からも、検討をしていただきたい旨お話をさせていただいたのですが、検討経過などについてお聞かせください。

(厚海次長) 去年は、このような記述で全道平均正答率の差については、公表されていません。石狩市では公表しておりません。

(中村委員長) どのような考えで3%と刻んだのか、よく説明していただきたいのです。

(厚海次長) 3というポイントの数字については、札幌市の例、道新の今年の11月26日の管内別正答率の時もやはり、1ポイント以上3ポイント未満が、ほぼ同様ということですので、3ポイントというのはカギであると抑えておりましたので、そうさせていただきました。

(中村委員長) 道教委が昨年示した「道と同様」は、1ポイント未満の範囲内です。「道とほぼ同様」は、1ポイント以上3ポイント未満の範囲内で、道より高い

ものは「ほぼ同様（上位）」、道より低いものは「ほぼ同様（下位）」としています。
「道よりやや高い（低い）」は、3ポイント以上、5ポイント未満の範囲内です。
「道より高い（低い）」は、5ポイント以上、7ポイント未満の範囲内です。道も色々な議論を経て示しているのであります。札幌市がそうだから石狩市もそうするというだけで、道が示した区分について全く議論もしないのは、如何なものかと思えます。私はハードルを低くして、努力すれば1歩でも確実に成果が見える方式のものを大いに活用すべきだと思います。やはり3ポイントも高さがある階段を一気に登って行くのは大変なことです。私たちは、教育委員会で教育プランを作り、重点施策として22年度から学力向上策に取り組んでおり、少しでも成果につながるよう地域の方々の協力も得ながら展開しているところであります。この様なことから教育委員会だけで議論して良いわけではないのであります。石狩市の教育課題の解決には、家庭や地域なり全体で取り組まなければならないものが多くありますので、市民の方々にも少しでもよくなったというものを実感していただける仕組みが大事だと思います。

（厚海次長）まず、3つしかないというのは、3つしか必要がなかったから3つにしたのです。というのも、例えば、ほぼ同程度、それから、やや下回るとか下回るにしていくとして、3ポイントではなく4ポイント5ポイントになったとしても、石狩市の場合、全道とほぼ同程度となったものですから、上と下をカットしたということになります。

（中村委員長）石狩市と北海道を比較すれば、石狩の場合は確かにその通りです。しかしながら、道が昨年実施した区分にあてはめると、当然そうではないケースも出てくるのです。分かりやすいところと言えば、7頁の国語Bですが、実際の数字を道の刻みにあてはめると「道と同様」の1ランク下の「道とほぼ同様下位」に該当してくると思います。刻みを小さくしていくことによって、今置かれているポジションはどういう状況にあるのかをより正確に知ることができます。

また、もう少しで1ランク上に上げられるものが、4頁にあります。これは数学Aですが、あとほんのわずかで、「道とほぼ同様（上位）」のランクに上げられる状況にあります。にもかかわらず「道とほぼ同程度」ですと言うから、その努力の方向性が見えて来ないのであります。道教委の物差しを活用することによって、あと少し努力すればそこに到達するとなると意気込みが違って参ります。1歩ずつ登って行く、そういう道を用意してあげることが必要であると考えます。

また市教委は、道と比較してほぼ同程度だからと申しますが、抽出校で北海道と全国を比べると、北海道は5ポイント以上7ポイント未満下回り「全国より低い」ランクに該当する教科があります。全道と比べ、ほぼ同程度ですからご安心くださいという意味であっては困ります。ですから、調査目的をちゃんとしなければというのは、そこにあるのです。

(土井委員) 前回もそのようなお話になりましたので、よくわかりますが、この公表の目的もきちんとしていかなければならないし、前に話合った時は、市民に公表するということでした。それで、石狩市としてはどのように分析するかということで、大変苦勞したと思います。どのようにわかりやすく市民に知らせていくかということの範囲だと理解しています。委員長が言う、どこを努力していくか、どこを頑張れば到達できるかということは、各学校違います。全部それぞれ違いますし、学校ごとにデータがいつていますので、そこで、これで良いとは思っていないと思います。各学校一人一人のデータがいきますから、分析してやります。この公表は、市民にわかりやすく、石狩市の実態がどの程度なのだろうと知らせていくという面で非常にわかりやすくしていきたいという点で、3ポイントプラスマイナス、という風に考えたのかと私は理解したのです。ですから、市民の人たちにどこを頑張れば良いのかということを知らせるのも大事だし、どこを頑張れば良いのかということは、各学校で一人一人の子ども、市民にとっては、自分の子どもはどうなのだろうということを知りたいと思います。それから子どものいない市民についても、石狩市の現状はどうなのだろうということを知りたいと思います。そのために公表するということですから、あまり、複雑になると見づらいということがあると思うので、市民に見てもらえるように、このようにしたのかと思って、公表する目的は、今の石狩市の子どもたちの現状を分析することだと思っています。それを知らせていくということが、一番の目標だと思っています。どこを頑張ったら良いかということについても、ある程度でていますし、あとは各学校のデータと各学校に頑張っていて、色々な課題をとっているということが現状だと思います。市民への公表となると細かいのは、難しいのかと思っています。

(中村委員長) 私の言う意味は、当然学校と生徒と保護者が基本となりますが、それだけで教育が成り立っているかといえば、決してそうではないのであります。今、置かれている石狩市の教育の現状は、家庭と子どもと学校だけでは解決できないほど様々な課題があり、市民のお力をお借りしながら学力や体力の向上を図るべく、新たな教育方針を策定し走り出したのであります。市民の方々の積極的な参加と協力をいただきながら課題の解決に当たることが、何より大切なことであります。子どもがいる、いないに関係なく、市民の方々に教育委員会が展開する事業について、何時でも深い関心を寄せていただけるように、私どもは常に説明責任を果たしていかなければならないのであります。

次に、基本的な生活習慣の表現の仕方についてであります。13頁の睡眠時間ですが、9時に寝る小学生が13.3%であるにも拘わらずこれを基準にして、全国よりやや早めだと結論づけるのはいかがなものかと思っています。50%くらいの児童が何時に寝ているかという点に着目し、議論していただきたいと思っています。

一方、起床時間のところでは、わずかな児童のことには触れず、80%を超える児童の起床時間について、全国と比較しておりこの方は実態を良く反映していると思います。14頁の家庭学習時間ですが、2時間に着目して議論を展開していますが、逆に1時間も勉強しない子どもがいることに、私たちは注目すべきと思います。道教委が公表しているデータは、1時間で見えています。そういうデータが出ているのにも関わらず、石狩はなぜ2時間に着目し、全国と変わらないとするのか理解に苦しみます。

次に、学校に対する調査についてありますが、道教委では公表しているにも関わらず、石狩市が触れていないのはどうしてですか。児童生徒に対する設問が6問あり、学校へは7問ありますが、そのなかには大事な項目があります。道教委は、放課後を利用した補充的な学習サポートをした学校の割合について、昨年度より小学校で高く、中学校で云々としております。また、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合については、北海道は全国と比べて小学校では38.2ポイント低く、中学校でも18.2ポイント低いことを公表しているのです。石狩市教委は、ちゃんとやっているとお聞きしており高いのかも知れないのに、学校に対する調査項目を何故あえて1つも入っていないのか不思議でなりません。基礎データを示していただかないと私ども教育委員として、判断ができないのであります。

(樋口教育長) 今回の最初の正答率の関係については、道教委が示している公表を見ても、市町村がどこに入っているかということの中では、現実的にはあまり意味がないということで、今回採用しませんでした。去年の議論を踏まえて、3ポイントについては、委員長は1ポイントとおっしゃっていますが、道内の市町村は3ポイントを基準としてやっているところが多いので、その部分を基本的にさせていただいたということです。

(中村委員長) 来年も道教委では、国の交付金を活用して実施したいと言っておりますので、今年と来年に向けた議論をさせていただきたいと思います。この様な重要な案件について、12月にとりまとめ今日まで一度も事前報告も意見交換もないまま来てしまいましたので、各委員からの意見等を踏まえ、再構築させていただきたいと思います。

(樋口教育長) 今回については、この前についても、段階を設けるという形があったものですから、それについては文章の表現では、それではわかりにくいので、段階を設けた形で、先ほど申しあげましたように、多くの市町村が3ポイントを使っている。あるいは、道教委でも1%毎というような公表の仕方を求めているということでしたので、今回はこのような形で作らせていただいたということが率直なところでは、できるだけわかりやすくということを手眼的に先ほど説明させていただきましたように、問題例についてできるだけ解説

を行ったところです。ただし、生活習慣については、分析そのものが甘いというご指摘でしたので、例えば、午前9時より前を10時前ということで分析させていただきたいと思います。また、学校の質問紙の関係について、十分でなかったということは、率直に反省させていただきたいと思います。

(中村委員長) 全国学力・学習状況調査結果の公表について、再度調整し改めて協議したいと受け止めて良いのですか。

(樋口教育長) 学校質問紙で、学習時間の問題や、長期休業中については、付け加えることは可能でないかと思います。

(中村委員長) 少なくとも基礎データ等は、配布された方が良いと思います。

(樋口教育長) その点の情報提供については、今後しっかりさせていただきたいと思います。

(中村委員長) 公表は、次の1月の委員会まで待つのですか。それともその前に修正案や資料を提供して、了解が得られ次第公表したいのですか。ただただ、長引かすつもりはないのです。

(厚海次長) 学校質問紙については、基本的には先ほど委員長からご指摘ありましたところは、石狩市は上回っております。

(中村委員長) 私も学校視察などの際に、先生方が放課後や長期休業時にサポートして下さっていることをお聞きしておりましたので、お話しさせていただいたのであります。

(厚海次長) 気がつかなかったというところは、率直なところですが、昨年度の例から、今年公表ということ踏まえて、昨年より前進させようという思いはあってですね、様々な工夫をしたつもりだったのです。ご指摘の通り、そういうことも知りたいということであれば、提供については分かりました。

(中村委員長) 基礎データを示さなければ、道教委のホームページを見た石狩の人は、全国と北海道とが余りにも開きすぎており、石狩もそうじゃないかと思われるかもしれません。石狩市は、先生方の理解と協力を得て頑張っているのですから、こうした先生方のご努力を評価し、誇りに思っていたいただきたいのであります。先程の安田委員の発言は大事なことで、プラスとマイナスの部分をバランスよく色々な基礎データに基づきながら記述をしていただきたいのであります。

(安田委員) 今、委員長が指摘されていたように、北海道との差でほぼ同程度というのが、マイナス3からプラス3という幅に入ることを意味するとしたら、この幅は少し大きいと思いついて見ました。その石狩は少し下で、平均に近いところなのだろうと思うのですが、その中で、ほとんど平均や、ちょっと頑張らなければならないところは、もう少しわかりやすく見えた方が良いのではと思います。

(樋口教育長) 来月を待たないで、お示しします。

(中村委員長) 他にございませんか。本件については、各委員からの意見等を踏まえ詳細な資料をご提示いただき、1月の委員会で結論が出せるよう進めることでよろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) 異議なしと認め、協議事項の①については、次回継続協議とすることに決定しました。

(中村委員長) 以上で、日程第4 協議事項を終了します。

(中村委員長) 日程5 報告事項を議題とします。

日程第5 報告事項

① 平成22年度「いしかり情操教育プログラム」事業の実施報告について

(中村委員長) ①平成22年度「いしかり情操教育プログラム」事業の実施報告について、事務局から説明をお願いします。

(清水社会教育課長) 別紙資料により説明する。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(伊藤委員) とても感動したということが非常に多くて、感想も抜粋してあって、良くわかったとか、とてもよくわかったというアンケート結果がたくさんあるなかで、2年生の11名があまり感動しなかったと特徴的に出ていますが、どんなところかはわかりますか。

(清水課長) やはり、全体として盛り上がっている状況ではありましたが、一部に多少睡魔がおきているなど、非常に快い音楽でしたので、そういったマイナスになるのかわかりませんが、必ずしもそこにのめり込む人ばかりではないということは、やはり見ていて感じます。そこがあまり感動しなかったことと連動しているかどうかの分析は終わっていませんが、この辺はもう少し考えるべきところかなと思います。

(伊藤委員) すべての子どもに感動させる事業は、そうそうできるものではありませんので、聞き方が悪くてすみません。

(清水課長) 補足ですが、これぞ音楽だということで、そこで何故ジャズなのか

というと、初めて聴く音楽、初めてみる絵でもそうですが、そういったものに、何か新しい発見だとか、新しい感動がうまれるのかと思うなかで、子どもたちがなかなか聴き慣れていないものに、ジャズ、あるいはラテン、ボサノバなど、色々なジャンルがあると思います。クラシック音楽については、比較的學校でも組み込まれておりますし、それがベースとなっておりますし、あるいは、學校によっては吹奏樂がある、それは相当な大人數で、この間のクリスマスコンサートも非常に感動的な場面を感じましたが、相当大音量で、心に響くサウンドということもありまして、それを身近なものとして、すべての學校にプログラム化していくかということは、正直難しいなかで、少ない編成のなかで、子どもたちにインパクトを与えるのは、どんなものかというなかの一つとして、ジャズやラテンなどには可能性が非常にあると考えています。

(伊藤委員) ありがとうございます。

(安田委員) 費用は、どのくらいかかったのでしょうか。

(清水課長) だいたい、出演料込で12～3万円です。ちなみに出演料は、8万円くらいです。1人2万円です。プロのミュージシャンを2万円でということは、地理的メリットがあつて、あるいはミュージシャンがこの事業に積極的に関わりたいと思つてくださり、商売抜きで来ていただいています。

(安田委員) アートウォームに入る容量もあるから、1年生にということでしたが、何回かやらないと、一度には難しいですね。

(清水課長) 今、おっしゃったように、相当工夫しないと難しいと思つていて、すべてをアートウォームでやることは難しいと思つています。そういった意味で、學校に出向いてやることも考えなければならないなと思つています。その時には、編成を変えなければならない。例えば、ドラムはあつたらうるさいとか、色々工夫はしなければならないと思つています。体育館で良いのかと言えば、広すぎて集中できないとか、色々な欠点もございますので、學校とうまく連携していけるように、學校と相談しながら事業化を目指したいと思つています。

(安田委員) 予算面では、そんなにかからないのですかね。

(清水課長) 比較的大きなお金ではないのですが、學校の協力あつての事業ですから、無理がかかるようでしたら長続きしないと思つていますので、學校に出向く、あるいは今回のように小規模校であれば、3学年1度にできますから、そうすると3年に1度というサイクルも考えられますし、厚田・浜益もそのサイクルが考えられます。

(安田委員) 大規模校となると、出向いていく形ですか。

(清水課長) 樽川中や花川南中は、非常に人數が多いですので、アートウォームではぎりぎり大丈夫かと思つています、それよりも、先ほど申しました理由で、學校から外にでることについては、非常に困難性がありますので、それは學校と相

談しながら、どういった形が良いか検討して参りたいと思います。

(安田委員) 次年度もそういったトライアルをしていくのですか。

(清水課長) 一つ学校でやるというパターンも考えたいと思っています。

(中村委員長) 他にございませんか。それでは、報告事項①を了解しました。

② NPO法人石狩市文化協会の設立について

(中村委員長) ②NPO法人石狩市文化協会の設立について、事務局から説明をお願いします。

(清水課長) 別紙資料により説明する。

(中村委員長) ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答 なし

(中村委員長) ご質問等がないようですので、報告事項②を了解しました。

(中村委員長) 日程第5 報告事項を終了します。

日程第6 その他

(中村委員長) 日程第6 その他を議題とします。

(中村委員長) 事務局からございませんか。

① 子宮頸がん予防ワクチン接種に係る周知について

(池田課長) 子宮頸がん予防ワクチン接種ですが、先月、国の補正が成立しまして疾病対策の推進として、子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン接種の促進が盛り込まれているところです。この制度は、市町村が実施するワクチンの接種事業に対して国が都道府県に設置した基金を通じて2分の1を助成するという事業です。石狩市はこれを受けて、昨日の臨時市議会において、議決をされ、来年の2月1日から実施することとしています。特に、子宮頸がん予防ワクチンについては、対象が中学1年生から高校1年生の女子となっていまして、市内に1,100名ほど対象がいますが、6ヶ月間で3回接種しなければならない事業です。ちなみに任意接種です。市におきましては、接種対象者全員への啓発用パンフレットを同封し個別案内による通知、また、対象が未成年であることから、保護者

への説明会を厚田、浜益含めて、数か所で開催する予定です。教育委員会としても、接種を受ける女子中学生への情報提供を学校でも行っていただくよう、本日通知をしているところです。具体的には、学校の希望によって、教師による説明の際の事前研修、また、説明そのものへの講師派遣、具体的にはこの2点について、学校の要請を受け、教育委員会として調整させていただく予定です。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありました。この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(安田委員) 学校で説明するという話は、女子生徒だけにするのですか。

(池田課長) そうです。

(安田委員) それをするのは、あくまでも学校の先生なのですか。

(池田課長) 2点について、具体的にまず、子宮頸がんワクチン自体の情報が学校には不足しています。実際に生徒に説明するにあたって、説明役になる教師になると思いますが、その先生の事前研修が必要であろう。また、2月1日開始ですから、その前に判断材料としての情報提供をしなければならないということもありまして、先生方が研修を受ける時間もないのだろうかということも予想しまして、講師の派遣もどうですかということ、本日、選択肢として通知しているということです。

(安田委員) 学校としては、講師にきてもらうこともあるし、やはり全部の先生が知らなければならないから研修会を開くという要望をだしても良いし、ということですか。

(池田課長) どういった必要性によって、事前研修がいるかということは分かれてくると思います。安田委員がおっしゃったように、子どもたちの健康のことだから、学校全体として受け止めたいということで、事前に教師への説明も必要とは存じますが、私どもとしては、生徒への説明の際の情報を研修等で得たというケースもあるのではないかとということで、調整項目の一つに入れていきます。現実的には、少し私の方で打診したところ、講師を派遣していただきたいという学校がほとんどでした。

(中村委員長) 他に、ございませんか。それでは、その他①を了解しました。

(中村委員長) 他にございませんか。

② インフルエンザ様疾患による臨時休業の状況について

(池田課長) 12月9日の朝、花川中から連絡がありまして、1年4組の生徒のなかで、インフルエンザの症状にある生徒が12名、そのうち欠席が9名ということもあり、学校医とも相談の上、午後から学級閉鎖をするという報告を受けておりました。実際には、土曜日曜を挟み、13日月曜日からこの学級閉鎖も解除されて、現在は通常通りの授業に入っています。他校からの報告は、現段階ではありません。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答 なし

(中村委員長) ご質問等がないようですので、その他②を了解しました。

(中村委員長) 他にございませんか。

(中村委員長) 教育委員の皆さんからございませんか。

(中村委員長) なければここで、この24日に任期満了を迎えまして、退任される安田教育委員長職務代理者から退任のご挨拶をいただきたいと思います。

・安田委員の退任挨拶

(中村委員長) 以上で、日程第6 その他を終了します。

日程第7 次回定例会の開催について

(中村委員長) 日程第7 次回会議の開催日程を議題とします。

(中村委員長) 次回については、1月25日の火曜日、14時30分からの開催を予定しております。よろしく願い申し上げます。

閉会宣告

(中村委員長) 以上をもちまして、12月の定例会の全ての議題は終了いたしました。本日は、これをもちまして閉会いたします。

会議録署名

平成23年1月25日

委員長 中村照男

署名委員 安田秀子